2018. 2. 3 GEWANDHAUS 龍ヶ崎ゲヴァントハウス【オリジナルCDコンサート】

没後150年“ロッシーニの世界”第1回

プログラム

今年は、イタリアの作曲家ロッシーニの没後150年の記念の年に当たります。そこで何回かに渡って特集を組むことにしました。ロッシーニといえば生涯に40曲にも及ぶオペラ作品を残したオペラ作曲家として知られていますが、同じイタリアのヴェルディやプッチーニに比べて上演頻度も少なく、軽く見られがちです。ロッシーニの作品の多くがオペラブッファ（滑稽な・面白いという意味を持つイタリア風の喜歌劇）で占められ、その後主流となって行くオペラセリア（悲劇性の強い正統的な性格を持つ正歌劇）に呑み込まれてしまった事がその理由のひとつに挙げられます。1829年の「ウィリアム・テル」を最後にオペラの筆を折り、その後は歌曲や宗教曲を書き続けました。ロッシーニは18、19世紀イタリア・オペラの橋渡しをした作曲家として重要で、その再評価が期待されるところです。（オペラ解説は別紙参照）

６曲の弦楽のためのソナタは、わずか12歳の時の作品で、明るく、軽やかな曲想はすでにロッシーニの特徴をよく表しいいます。1835年、パリのプライベートサロンのために作曲した12曲を選んでまとめた歌曲集が「音楽の夜会」で、8曲の独唱曲と4曲の二重唱曲からなっています。ロッシーニの多彩な才能が最大限に発揮された傑作です。（中川）

＊＊＊＊＊＊＊

ジョアキーノ・ロッシーニ（1792～1868）：

歌劇“タンクレディ”序曲

歌劇“タンクレディ”～こんなに胸騒ぎが

モンセラート・カバリエ（ソプラノ）
ヘスス・ロペス・コボス指揮オーストリア放送交響楽団
（1983.9.29　ウィーン・コンツェルトハウスでのLive）

歌曲“はるかに”

ニコライ・ゲッダ（テノール）／ミゲル・ザネッティ（ピアノ）
（1979.7.18　ドゥブロヴニク音楽祭、宮殿の中庭でのLive）

歌曲“ボレロ（誘い）”（「音楽の夜会」第5曲）

マリア・グレギーナ（ソプラノ）／イヴァリー・イリヤ（ピアノ）
（1999.4.24　サントリーホールでのLive）

弦楽のためのソナタ第6番ニ長調

リッカルド・ムーティ指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
（1985.6.24　ベルリン・フィルハーモニーホールでのLive）

歌劇“絹のはしご”序曲

マルチェッロ・ヴィオッティ指揮ザールブリュッケン放送交響楽団
（1994.2.11　グローサーゼンテザールでのLive）

＊＊＊ 休 憩 ＊＊＊

歌曲“アルプスの羊飼いの娘”（「音楽の夜会」第6曲）

歌曲“ゴンドラの舟遊び”（「音楽の夜会」第7曲）

歌曲“踊り”（「音楽の夜会」第8曲）

エヴァ・メイ（ソプラノ）／浅野菜生子（ピアノ）
（2017.2.20　紀尾井ホールでのLive）

歌劇“セヴィリアの理髪師”序曲

クラウディオ・アバード指揮ミラノ・スカラ座管弦楽団
（1973.5.25　ウィーン・ムジークフェライン大ホールでのLive）

歌劇“セヴィリアの理髪師”

第1幕“私は町の何でも屋”（フィガロ）／カンツォーネ（伯爵）～二重唱（フィガロ／伯爵）
第1幕“今の歌声は”（ロジーナ）／第2幕 五重唱（ロジーナ／フィガロ／伯爵／バジリオ／バルトロ）／フィナーレ
ヘルマン・プライ（バリトン…フィガロ）／ルイジ・アルヴァ（テノール…アルマヴィーヴァ伯爵）
テレサ・ベルガンサ（メゾ・ソプラノ…ロジーナ）／パオロ・モンタルソロ（バス…バジリオ）／エンツォ・ダーラ（バス）
クラウディオ・アバード指揮ロンドン交響楽団（1971　ロンドン録音　グラモフォン盤）

★ホームページアドレス　http://www.bekkoame.ne.jp/~hippo/gewandhaus/